

本場奄美大島紬産地における製品検査制度と品質保証

Quality Guarantee System of Ooshima Textile Industry

遠藤 吉樹

Yoshiki ENDO

奄美大島紬産地は東の結城とともに伝来の手工的染色手法による純然たる手織紬の産地として市場の名声を得ている。衆知のように大島紬と総称されている紬織物は、鹿児島市名瀬市および大島郡一円を組合地区とする本場奄美大島協同組合の本場奄美大島紬と鹿児島市および鹿児島県一円を中心とする鹿児島織物工業組合の本場大島紬で生産されているが、経済的産業基盤の相違等から奄美産地が経緯緋を主として生産しているのに対して鹿児島産地は主に力織機による繰緋を生産している。両産地の染色技法の源流は同一のものであるかもしれないが、鹿児島産地の繰緋は合成染料による染色原料糸を主とするものであるのに対して、奄美産地の紬は緋締工程における特殊な締技法と車輪梅の植物染料、奄美産地特有の媒染泥土で泥染めした緋原料糸を使い手織で製織した経緯緋であり、本質的に異なるものであるといえよう。

小論では染色技法が植物染料や泥土に由来する高級品の経緯緋を社会的分業組織により生産している奄美産地における製品検査制度と品質保証の考察を試みた。

分業化による専門化は技術水準の高度化を可能にするが製品が高級化すればするほど分化された工程の調整や全体としての製品の品質検査と品質保証を誰が行うかということは重要であり、とりわけ零細な機業家が多数占める奄美産地の産地商標の信用保持にとって重要な問題である。さらに、この検討は近年の機能別に専門分化した企業内機能別組織を有する企業が製品開発を行う際の組織間調整、統合の考察に役立ち、効果的、効率的な開発パフォーマンスの達成に貢献するものと思われる。

まず奄美産地における生産状況と生産構造の検討を行い、手作業による高級品主体の生産状況、零細機業家が多数を占める中での零細機業家と大手機業家の混在、工程の多くを手作業による工程別社会的分業体制に依存する生産構造等の奄美産地の生産状況と生産構造の特質を明らかにした。

その上で製品検査制度の推移、現行の検査制度と商標表示、過去と最近の製品検査実績、工程間調整と品質保証責任調整の商慣習等の検討を行い、奄美産地での製品検査、品質保証制度の特徴を検討するとともに問題点の考察を行った。

そして奄美産地における製品検査制度と品質表示について今後の課題の検討を試みた。